

## カンパラ通信～ナカセロの丘から

### 第15回 泉佐野市とウガンダとの深い関係

日本では秋分の日も過ぎて、日毎に秋も深まり紅葉の美しい季節となってきたのではないのでしょうか。ここウガンダは雨季に入りましてしばらくになるのですが、1日に1回は雨が降り、そうすると少し肌寒さを覚える今日この頃です。

さて、今回のカンパラ通信では泉佐野市松下副市長を団長とする公式訪問団の本年7月17日から21日までのウガンダ紀行をお伝えします。泉佐野市からの訪問団は昨年7月の訪問に続き約1年ぶり二度目になります。しかしながら前回の親善訪問と大きく違うのはご紹介したように副市長を団長とした公式訪問団という点です。今回のウガンダ滞在中には訪問団は北部ウガンダのグル市と中央政府の教育スポーツ省との間で二つの公式文書に署名することで泉佐野市はウガンダとの具体的な交流に向けて大きな一歩を踏み出すこととなりました。



グル市での署名式での首相を囲んでの記念写真

千代松市長が参加しました昨年の泉佐野市のウガンダ訪問についてはカンパラ通信の第2回で同市出身のタオル業者でスマイリーアース社の奥龍将社長とその精神的師匠である柏田氏をご紹介しました。今回はこの公式訪問団に焦点をあてたいと思います。なにぶん、この泉佐野市の公式訪問団のウガンダ来訪は2か月以上前の出来事ではあります。少し時間が経ってはおりますが、私自身のつい最近の9月29日のグル市への出張と繋がりががあるのでこちらの通信に取り上げることに致しました。

実は、昨年7月の前回の泉佐野市訪問団がウガンダを訪問した際に千代松市長が、本年再び泉佐野市代表団がウガンダを再訪することをほぼ確約していました。それは、泉佐野市

がその時点で既にオーガニックコットンを縁にグル市と正式に友好都市提携することを視野に入れていたからです。そして、それとほぼ並行的に泉佐野市が東京五輪・パラリンピック大会の際にウガンダ五輪代表団を受け入れるホストタウンに申請し、これをきっかけにスポーツ交流を深めようともしていました。これらの動きの原動力はウガンダの人々に深い信頼を得ているスマイリーアース社の奥社長であることは言うまでもありません。ホストタウンは、内閣官房の五輪・パラリンピック事務局が事務方となって、2020年の東京大会開催に向けてその参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を進めようとする日本全国の地方公共団体を「ホストタウン」として登録し、これら地方公共団体のグローバル化を推進し、地域の活性化を図り、観光振興等に資するようになるものです。泉佐野市は、2016年12月に見事ウガンダの「ホストタウン」に登録されました。



チャツバツデ貿易産業大臣主催の夕食会にて 教育スポーツ省での署名式記念写真

これらの関係を公式なものにするために、冒頭に述べたように松下副市長を団長とする訪問団が7月17日から21日までウガンダに滞在した訳です。今回の訪問団の行動には私もほぼ全行程に同行しました。訪問団一行は、18日にグル市に入り、前回と同様にグル市民の熱い歓迎を受けます。そして、ルグンダ首相の臨席の下で松下副市長とグル市のラベジャ市長との間で友好都市提携に関する文書に署名がなされました（なお、グル市での市民の熱烈な歓迎や署名式の模様は、ウガンダ産のコットン为原料として徹底的にオーガニックにこだわったタオル創りを追究する奥龍将社長を追ったBS-TBSで本年8月に放映されたTV番組「夢の鍵」で見られます。）。この場には、日本から駆け付けた日本・アフリカ友好議連の三原朝彦会長代行と山際大志郎事務局長も参列してくれました。その晩の歓迎夕食会ではグル市の関係者と訪問団団員との間での人的関係も非常に打ち解けた感じで進みました。翌日の午前中に訪問団はオーガニックコットンを生産する農家を視察してから首都カンパラに戻りました。その日の夜は、この年の5月に訪日し、その際に泉佐野市も訪問したチャンバツデ貿易産業大臣が夕食会を主催して温かくもてなしてくれま

した。翌20日は、午前中に松下副市長とウガンダ教育スポーツ省を代表してバカブリンディ・スポーツ担当国務大臣がスポーツ交流に関する文書に署名しました。



ムセベニ教育スポーツ大臣を囲んで

午後には、教育スポーツ大臣でもあるムセベニ大統領夫人を表敬訪問し、両国間のスポーツ交流が推進することについての祝福の言葉をいただきました。この日の晩は、私の主催で日本大使公邸の庭でウガンダのスポーツ関係者を幅広く招いて泉佐野市訪問団員と懇談する機会を設け、今後の協力が円滑に進んでいくような下地作りの場としました。この場には教育スポーツ省の幹部、ウガンダ陸連の会長、ウガンダの国内五輪委員会の副会長やパラリンピック委員会の会長といったスポーツ組織の代表に加え、2012年ロンドン五輪の男子マラソンの金メダリストのキプロティッチ選手も駆けつけてくれて、大変盛り上がった夕食会となりました。こういった忙しい日程をこなして泉佐野市代表団は21日にエンテベ空港を出発していきました。泉佐野市は、今年の2月に泉州マラソンにウガンダから1名のマラソン選手を既に招聘することにより交流を開始していましたが、グル市から職員を泉佐野市に招聘して国際交流員として任命することにより、こうして公式化されたウガンダとの交流を今後本格的に進めていくことにしています。もちろん、奥社長の貴重な協力はこれからますます求められることは勿論であります。



公邸庭でのレセプション



金メダリスト・キプロティッチ選手と

この7月20日の夕食会の場で私は、ウガンダ・パラリンピック委員会のムピンディ・ブマリ会長から、9月の最終週に年に一度の国内パラリンピック競技会をグル市で開催するので出席してくれないかと招待を受けました。また、泉佐野市からはグル市から国際交流員として訪日してもらう職員の推薦をまだ受けていないのでこれがなされるように協力してほしいと依頼されておりました。そういうことでこの2つの用務を一度にこなすチャンスだということで、9月29日にグル市に出張しました。グル市のグラウンドでパラリンピック国内大会の最終日に主賓として出席し、車いすバスケットボールの決勝を観戦するとともに閉会式には挨拶し、優秀者にメダルやトロフィーを贈呈しました。挨拶では、ウガンダからできるだけ多くの選手が出場条件をクリアして泉佐野市で事前トレーニングを行い、万全な調子を整え東京パラリンピック大会で活躍してほしいとの希望を述べました。私がパラリンピックの競技会に出席し観戦したのは今回が生まれて初めてでしたが、熱戦を楽しみました。閉会式直後にはラベジャ市長を市庁舎に訪ね、ホームシックに罹らず好奇心が強く優秀で働き者の若者を早めに推薦してほしいとの泉佐野市の希望を伝えました。これに対して、ラベジャ市長は、そのような条件にまさに合致する候補者に既に目星をつけているので、自分が次回カンパラに出張する時に青年を連れて行くので的確かどうか私に確かめてほしいと回答してくれました。





車いすバスケットボール決勝戦の様様



賞状の授与

こうした泉佐野市とウガンダの交流がますます発展していくように、日本大使館としても、また、私個人としてもできる限りの協力を惜しまないつもりです。

(以上)